

---

# 夢を見る魚

並盛りライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢を見る魚

### 【Zコード】

Z0027B

### 【作者名】

並盛りライス

### 【あらすじ】

魚のぼうやは夢を見ます、大人になつても夢は続くのでしょうか  
…ぼうやとカモメのとても短い話

(前書き)

この作品は、童話企画で「跳り」「跳」をテーマとした作品です。「十月の童話」で検索すると、他の先生の素晴らしい作品が読めます。ぜひ比較して楽しんでください。

冬の海は冷たく、冬の風はそれよりも、さらに冷たい。  
遠くの方で、煌めく宝石みたいな光の粒が、降り注ぐよう落ちて  
くる。

「さつき、僕は鳥になつたよ。」

魚のぼうやは言つました。

まだ、ほんの子供ですが体はもう立派な大人の魚です。

波の音は静かに、ほどけてやがて満ち引きを繰り返します。

「魚は空を飛べないのかな?」

海は空の青を映して、ビームでも穂やかでした。

「夢の中なら、飛ぶことは簡単さ。泳ぐ事だってできる。」

カモメ達が歌うように囁きます。

魚のぼうやは嬉しくなつて言つます。

「大人になつても夢を見るの?」

ほんの少し、カモメ達は黙つて。

「もちろんさ。」

と答えました。

「僕も一緒に連れてこつてよ。」

風は冷たく、海の表面を撫でるよつて吹きます。

「それはできなつよ。」

カモメ達は言いました。

魚のぼうやは、悲しくなつて泡の涙をポロポロ流します。

「おやすみぼうやは。夢の中なら空だつて飛べる。」

「僕、眠くなんかないよ。」

魚のぼうやはが言いました。

「大人になつたら忘れてしまつ。でも思い出せばいいんだ。」

カモメはピュッと吹く風を受け止めながら言いました。

海を越えるのはカモメ達にとつては命がけです。

「ああ、おやすみ。大人になつても夢を見ることを忘れないよつてね。」

カモメは空高く、海を泳ぐみたいにスイスイと遠ざかっていくました。

今田もぼつやは夢の中で、楽しそうを飛ぶのでしょうか。

それは深い深い眠りでした。

夢も見ないくらい深い眠りの中でもぼつやは、眠る事は怖くないと知りました。

春になつて、ぼつやは夢の話をすることはなくなりました。

でも、それはぼつやは忘れてこるだけで、夢はこつもぼつやはの心の側で、カモメ達と共にありました。

春の海は穏やかで、時々船が思い出したよつて汽笛を鳴らす以外は静かでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0027b/>

---

夢を見る魚

2010年12月2日15時30分発行